

医事課

医事課長 浅野 友和

2016年を迎えるにあたり、医事課での業務を振り返りたいと思います。2015年は、フランスで同時多発テロが起きる等、国際的に政情が不安定であり、日本でもまたテロ組織に人質を殺害されるという非常に重苦しいニュースがあり、全体として暗い雰囲気にも包まれた感のある年でありました。

当院は1日の外来患者数が2,000名を超え、2014年11月に開棟した15階病棟43床の稼働率も80%以上となり、医事課においても、日々の業務に追われる中、幾つかの事業に携わり、病院経営に貢献をしていきました。

1. 手術室増設

2013年8月に外傷センターが設立され、手術件数が増加、従来の手術室数では予定の手術数を施行しきれないため、地下駐車場を工事して新たに3室の手術室を増設。2015年4月より稼働を開始しました。駐車場の工事に伴い、一時的に減ってしまった許容駐車台数を効率的に運用するため、連日、職員も車の誘導に尽力しました。

2. 武蔵野徳洲会病院開院

6月1日に当院と同じ医療法人沖縄徳洲会である武蔵野徳洲会病院が開院しました。これに伴い、当院医事課係長も開院1か月前に異動となり、武蔵野病院立ち上げの中心を担うこととなりました。

また、1週間前に行われた内覧会には、当院医事課及び事務職員の多くがスタッフとして協力しました。

3. JCI再認証取得

患者安全の徹底・コミュニケーションの充実・品質改善プログラムの常態化・高品質な医療ケアへのレベルアップを病院全体に浸透させ、世界に通用す

る医療を提供する病院を目指して、3年前に国際機能評価基準であるJCI (joint Commission International) を受審し、国内で4番目の認証を得ました。JCIの審査は3年ごとに更新が義務づけられているため、病院職員が一丸となり教育を徹底。9月末に、初回より厳しい更新審査を受け、10月にはJCI再認証を受けることが出来ました。

最後に、2016年の医事課の課題はJCI認証病院に見合うべき職員にならなければならないのは勿論のこと、4月にある診療報酬改訂、5月に予定している湘南鎌倉バースクリニックの開院や、今後、病院と連結した外傷センターの建設準備に積極的に関わっていかねばなりません。また同時に、地域の患者さんの期待に応えられるような病院づくりに取り組んでいきたいと思っております。